(青森県環境保健セッター内:担当 微生物部)

TEL 017-736-5411、 FAX 017-736-5419 青森県庁ホームページ http://www.pref.aomori.jp/

青森県感染症発生情報

(2004年第32週)

第32週の発生動向(2004/8/2~2004/8/8)

- 咽頭結膜熱については、先週に引き続き弘前、五所川原、上十三保健所管内で警報が出されています。特に弘前保健 所管内では6人から22人へと増加しました。
- 2 ヘルパンギーナについては、先週に引き続き、むつ保健所管内で警報が出されています。五所川原保健所管内ではや や減少したものの、青森及び弘前保健所管内では、患者数の多い状態が続いていることから、今後も注意が必要です。
- 流行性耳下腺炎については、八戸保健所管内で増加傾向にあるため、注意が必要です。

第32週五類感染症定点把握

保健所名	1	青森	3	ム前	,	F	五月	所川 原	上	+ =	ŧ	ごつ	青森	県計	増減数
疾患番号 · 疾患名	数	定点	数	定点	(前週からの増減)										
(72) インフルエンザ															
(60) 咽 頭 結 膜 熱	2	0.25	22	2.20	1	0.11	2	0.40	2	0.33			29	0.69	15
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	0.50	3	0.30	2	0.22			3	0.50	1	0.25	13	0.31	-1
(62) 感染性胃腸炎	10	1.25	14	1.40	1	0.11	1	0.20	11	1.83	13	3.25	50	1.19	4
(63) 水 痘	6	0.75	2	0.20	6	0.67	4	0.80	6	1.00	1	0.25	25	0.60	-19
(64) 手 足 口 病					2	0.22			3	0.50	1	0.25	6	0.14	4
(65) 伝 染 性 紅 斑	2	0.25											2	0.05	-2
(66) 突 発 性 発 疹	6	0.75	4	0.40	6	0.67	1	0.20	6	1.00	8	2.00	31	0.74	2
(67) 百 日 咳									1	0.17			1	0.02	1
(68) 風 疹															-1
(69) ヘルパンギーナ	41	5.13	38	3.80	6	0.67	7	1.40	5	0.83	44	11.00	141	3.36	-7
(70) 麻疹(成人を除く)	1	0.13											1	0.02	1
(71) 流行性耳下腺炎	7	0.88	4	0.40	21	2.33	1	0.20	1	0.17	1	0.25	35	0.83	11
(73) 急性出血性結膜炎															_
(74) 流 行 性 角 結 膜 炎	1	0.50			2	1.00	1	1.00					4	0.36	2

定点数								
	インフル エンサ	小児科	眼科	基幹				
青森	13	8	2	1				
弘前	15	10	3	1				
八戸	14	9	2	1				
五所川原	7	5	1	1				
上十三	9	6	2	1				
むつ	6	4	1	1				
合計	64	42	11	6				

インフルエンザ定 点については、内科定 点と小児科定点を合わ せたものです。

は注意報

は警報です。

「空欄」: 患者発生数0

表 **以外の感染症法対象疾患** (16年計には、今回届出された人数を含む)

(14) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患) 青森保健所管内1人、八戸保健所管内1人 (16年計 11人)

(56) 破傷風(五類全数把握疾患) 五所川原保健所管内 1人 (16年計 1人)

1人 (79) クラミジア肺炎(五類定点把握疾患) 上十三保健所管内 (16年計 1人)

マイコプラズマ肺炎 (五類定点把握疾患) (16年計 79人) 八戸保健所管内 2人 (82)

:フラビウイルス科フラビウイルス属ウエストナイルウイルス (West Nile virus)(図1)

: 従来はアフリカ、中近東、西アジアでした。1990年代中頃から、近年まで報告のなかったアメリカ、ヨ

ーロッパにおいて流行が起こりました。(図2)

感染経路:本ウイルスを保有した蚊に刺されること(イエカ、ヤブカ等)。自然界では鳥と蚊の感染サイクルで維持され

: 潜伏期間は3~15 日。症状は発熱、頭痛、筋肉痛、発疹、筋力低下、意識障害等。近年の北米、ヨーロッパ 終

の流行は従来と異なり、重篤な脳炎を起こすことがあるため注意が必要です。

感染予防:日本での発生はありませんが、夏休み中に海外旅行へ出かける場合はできる限り肌の露出はさけ、

蚊除け剤などを使用し、蚊に刺されないようにすることが必要です。



図1 ウエストナイルウイルスの電子顕微鏡写真



図2 ウエストナイルウイルスの分布地域 (赤部分)